

「やったあ！」と喜ぶ錦風親方。中日までに2敗して、春ノ翔が好調な相撲を見せていただけに優勝はまったく頭になかった。

相撲に勢いをつけたのは、これまで全く勝ったことのなかった西神門に九日目に勝った一番。これで自身の相撲に自信がもてたようだ。

新横綱の西神門は勝ち越しも危ぶまれたが、千秋楽も勝って7番とした。

3関脇は鬼ヶ嶽が7勝とし、これで小結で



鬼ヶ嶽○(押し倒し)●四季嶋



西神門○(寄り切り)●佐賀海

9勝、関脇で3場所続けて7勝と安定した成績をあげ、大関返り咲きにに向けて来場所以降に臨むことになる。

その一方で、四季嶋が4勝7敗に終わり、7場所守ってきた三役から陥落が必至。綱乃花も千秋楽に英役に負けて負け越し、関脇から陥落となりそうだ。

3人の新人幕の中で一番期待された大石丸が5勝6敗と負け越して幕内の壁に跳ね返されたが、音柱と若雲山は8勝3敗と来場所以降に期待が持てる星をあげた。

今場所は史上初の5横綱時代到来と大いに期待されたが、皆勤は3人と残念な結果となった。ただ、若ノ嶋と春ノ翔が優勝争いを引っ張り横綱の強さを見せたのが救いだった。

次場所は5横綱全員が出場する場所となり、初日には初めて5横綱による豪華絢爛な土俵入りが見られそうだ。そして、千秋楽までこの5人による高いレベルでの優勝争いを期待したい。

注目の第166回本場所初日は9月14日の開催予定だ。
(錦風)

新十両風神丸が磯ノ海部屋から久々の優勝

中日で全勝力士が消えた十両の大混戦を制したのは、十日目、千秋楽と元幕内の実力者を破り2敗を守った新十両の風神丸が優勝を手にした。

九日目を終えて2敗のベテラン角武蔵と新十両の風神丸が先頭に立ち、これを3敗の若巨、鳥海波、駒波、寶蔵、伊達の富士の5力士が追う展開となって迎えた十日目。

先ずは角武蔵が逆馬山と対戦し、立ち会いで鋭い出足から先手を取り右の押付けで土俵際まで追い詰めたが、その右をかわされ左の寄り切りで敗れ3敗目を喫した。



角武蔵●(寄り切り)○逆元春

対する風神丸は元幕内の実力者、駒波との一番、互角の立ち会いながらも、相手の攻める隙を与えず、そのまま正面に寄り切った2敗を守り単独で先頭に立ち、迎えた千秋楽は昨日に続いて元幕内力士の寶蔵と対戦。



寶蔵●(寄り切り)○風神丸

勝てば優勝、負けると決定戦の可能性もあるこの一番でも、実力者相手に立ち会いから土俵中央で左を差す、昨日の相撲同様、相手を無抵抗のまま鮮やかに正面に寄り切り新十両にして堂々の優勝を手に入れた。

この結果に土俵下では愛弟子にカメラを向け、周りからの祝福に笑顔で応える磯ノ海親方の姿があった。九勝を上げ番付が上位に上がるであろう来場所は一気に新入幕の期待がかかる。

山、荒鷹、再十両の逆元春は幕下からの出直しとなり、十三枚目の羅維伝がぎりぎり残留かと言う結果となった。

上位陣では鬼門の東筆頭で勝ち越した若巨と2場所連続して好調な鳥海波が幕内に返り咲きそう。

実力伯仲で楽しみな展開になるであろう来場所も熱戦に期待したい。
(香具山)

幕下は逆岩、錦風勢が幕下席卷

幕下は4勝同士の旅籠錦と逆岩の決戦となり、逆岩が勝って新幕下で優勝を勝ち取った。当然ながら初対戦となった両者の一番。



旅籠錦●(寄り切り)○逆岩

ここは関取経験もある旅籠錦にやや分があると思われたが、逆岩が旅籠錦に力を出させて寄り切りで決着をつけた。

錦風部屋には今場所優勝を争うとみられた逆本や鎧島など錚々たる力士がいたが、親方もそれほど期待していなかった逆岩が優勝、来場所も錦風勢が引き続き場所を席卷することとなりそうだ。

2回目の幕下優勝がかかっていた旅籠錦だったが、優勝よりも兄弟子の柏陵山とともに再十両を決めたことが嬉しかったようで、取組後は部屋にも戻らずそのまま練馬の飲み屋に繰り出したとのこと。(後日女将さん談)

その柏陵山は巨鵬を下して4勝1敗とし4場所振り再到十両を決め、勝間田勢が昇進の1番手と2番手を勝ち取った。

3番手は一場所での返り咲きを決めた磯雷光。先場所は新十両で惜しくも負け越して残留とはならなかったが、今場所新十両で目覚ましい躍進を遂げた風神丸の活躍に続きたいところだ。

そして、4番目の枠に入りそうなのが達子波。先場所千秋楽に敗れて昇進を逃し悔しい思いをしたが、来場所ついに関取の座を掴み

そう。幕下付出しから7場所目での昇進は決して早い方ではないが、着実に階段を上ってきたという印象である。

秋田親方にとっても有望の十両力士の誕生である。160回場所に同じ付出した荒鷹には関取昇進では先を越されたが、来場所は立場が入れ替わることになる。来場所達子波が十両の土俵でどういった相撲を見せてくれるのか今から楽しみである。
(勝間田)

三段目、序の口

三段目は全勝で伊勢里と有難山が対戦。有難山は運営の手違いで本割前に一番相撲を取ったところ。疲れがあったか本割では元気がなく、伊勢里が先場所の負け越し、三段目陥落の鬱憤を晴らす形で一気に寄り切った。



有難山●(寄り切り)○伊勢里

序二段は全勝の山里部屋の木幡を倒して1敗と優勝を決めた。



平田○(寄り切り)●木幡

平田は先場所の序の口優勝に続き、初土俵以来の連勝を10に伸ばした。先場所逆本が14連勝したばかり、早くも新勝たヒーローかもしれない。



平戸波○(寄り切り)●神宮

序の口は鳴り物入りで初土俵を踏んだ大松戸部屋の新宮が佐々若部屋の平戸波と対戦。神宮優位との評判の中、佐々若部屋ただ一人の力士として親父の初優勝を報告したい平戸波の執念が、一気の寄りで神宮を圧倒した。
(鹿)